



## 『化学療法（抗癌剤治療）について』

---

がん治療のひとつである化学療法（抗癌剤治療）は、内服・静脈内(点滴)で抗癌剤を投与し、がん細胞を死滅させる全身的治療です。全身的な治療なので、がん細胞を死滅させるだけでなく、正常な細胞にも影響を与えます。この正常な細胞への影響が、治療の副作用として出現します。

化学療法（抗癌剤治療）の副作用には、自分で自覚できる副作用と検査をしてわかる副作用があります。自分で自覚できる副作用には、代表的なものでアレルギー・吐気・食欲不振・倦怠感（体のだるさ）・末梢神経障害（痺れ）・脱毛などがあります。検査をしてわかる副作用には、骨髄抑制（白血球減少・貧血・血小板減少）・肝機能障害・腎機能障害などがあります。

化学療法を行う際は、治療をしながら日常生活が支障なく過ごせるように、副作用の対策をいろいろと講じながら治療を行っていきます。



鹿児島厚生連病院  
がん化学療法看護認定看護師  
圓山 香代子